

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばとあたま・体のリハ室（単位2）		
○保護者評価実施期間	2026年3月10日 ～ 2026年4月10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2026年3月10日 ～ 2026年4月10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年5月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職連携	児童指導員や保育士、言語（ST）、身体発達（PTOT）が揃っており、未就学児から途切れのない専門的療育を行える。保護者アンケートでも「専門的な助言がもらえる」との意見を頂いた。	ケースカンファレンス（事例検討会）を実施し、児童指導員や勤務歴の浅いスタッフも、思考プロセスを学べる環境を強化していきたい。これらにより、さらに質量ともに高い療育レベルを持続展開していきたい、と考える。
2	こまめな連絡による安心と信頼関係の構築	児童の特性や活動中の様子、得意・不得意をアセスメントし、その内容を保護者へ共有している。 こまめな情報共有が安心感の構築に繋がっている。	情報共有をさらに高めるため、ICTツールの活用を検討している。 連絡用フォーマット改定を行い、職員の事務負担を軽減しながら、より良い連絡方法を実現していきたいと考えている。
3	ベテランST・PT・OTや保育士、児童指導員によるアセスメントとそれを保護者と共有～助言を行っている。	日々の連絡により、子どもの特性や得意・不得意に合わせた日々の声掛け、工夫を連絡している。より保護者の安心感を担保できるように努めている。	定期的なモニタリングや面談に加え、日常の情報有、ICT活用を取り入れていく。療育内容や場面の展開をより分かりやすく開示していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	防災マニュアル共有	スタッフ間では災害時の動きなど共有されていたが、保護者に対して「事業所がどのような防災体制をとっているか」を明文化して伝える部分が不足していた。	事業所の「防災・避難マニュアル」をわかりやすく、要約したリーフレットを作成していきたい。 保護者に配布しながら、非常時の引き渡し等についても、シミュレーションしていきたい。
2	避難訓練等の定期報告	訓練自体は計画的に行われていたが、それを保護者へ報告する仕組みが事業所内で決まっていなかった。	毎月の運営報告や連絡の中に「防災への取り組み」という枠を設けていきたい。訓練の実施有無に関わらず、ラジオや備蓄品チェック、事業所内の安全点検をこまめに発信し、安心感を高めていきたい。
3	情報の透明性	日々のアセスメント共有は行っていた。反面、事業所の地域へのアプローチや兄弟支援、といった項目の情報開示が不足していた。	児童個人の様子だけでなく、事業所としての防犯・防災の取り組みも発信していきたい。 また、兄弟児への配慮に関する助言、地域活動の様子も盛り込めるよう検討していきたい。